国鉄１０４７名解雇撤回！外注化阻止！　非正規職撤廃！
戦争法ゆるすな！ 労働法制改悪阻止！
被曝労働拒否！ 全原発を廃炉に！
ストライキに立ち上がろう！ 動労総連合を全国へ！

全国労働者総決起集会
National Workers' All-Out Rally

11 | 1 Sun. 2015

私たちが歴史を動かす

今こそ労働組合が闘いの先頭へ！

戦争・非正規職化を許すな
ストライキでとめよう！

「戦争させない」「安倍はやめろ」――国会前は数万、１０数万の怒りで連日埋め尽くされました。安倍政権が強行採決した戦争法に怒り、多くの仲間が声をあげたのです。闘いの火ぶたは切られ、歴史は動き始めました。

私たちの力で安倍を倒し戦争を止める。国会前の行動はその力を示し、歴史的勝利への出発点を築きました。これからが本当の闘いの始まりです。

何があっても戦争を止める。その闘いの先頭に労働組合がたつときです。労働者の団結した闘いが戦争を止める本当の力だからです。

貧困や格差、原発政策…。生きていけない社会が作られる中で、戦争への扉も開かれます。だからこそ職場、学園から声をあげましょう。「闘う労働組合を甦らせよう」と訴える１１・１全国労働者総決起集会への皆さんの大結集を訴えます。

11月1日（日）１２時
東京・日比谷野外音楽堂

【住所】東京都千代田区日比谷公園１－３
【日比谷野音への行き方】　ＪＲ新橋駅徒歩１５分
東京メトロ丸の内・千代田線「霞ヶ関」徒歩３分
日比谷線「日比谷」徒歩３分／都営三田線「内幸町」徒歩１分

呼びかけ　全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部　／　全国金属機械労働組合港合同　／　国鉄千葉動力車労働組合
国鉄分割・民営化に反対し、１０４７名解雇撤回闘争を支援する全国運動（国鉄闘争全国運動）
【事務局】千葉市中央区要町２－８ＤＣ会館　ＴＥＬ０４３（２２２）７２０７　ＦＡＸ０４３（２２４）７１９７

何も終わっていない！ 闘いはこれからだ

最高裁で国鉄1047名解雇の国家的不当労働行為が確定

国鉄闘争の力を発揮する時

６月３０日、労働運動復権にむけた闘いは大きな節目を迎えました。動労千葉の闘う国鉄分割・民営化による１０４７名解雇撤回裁判の判決が最高裁で確定したのです。戦争と非正規職化を進めるために国鉄闘争をこれ以上続けさせないという国家意思です。

しかし、同時に歴史的な勝利をかちとった日でもありました。最高裁に国家的不当労働行為を認めさせたのです。

労働運動が後退につぐ後退を強いられ、２千万人もの非正規職が生み出される社会の出発点。それが８７年に行われた国鉄分割・民営化でした。そこには、労働運動をつぶして憲法改悪・戦争へ突き進む狙いもこめられていました。

国鉄分割・民営化が不当労働行為ということは、今の社会の現実も、安倍政権が進める民営化・戦争政策も、すべて間違いだということです。

本来、分割・民営化は４、５年で決着がつくはずでした。しかし、

ＪＲに原職復帰を申し入れ 新たな闘い始まる

９月９日、ＪＲ東日本に「不当労働行為ならＪＲに採用しろ」と申入れ

国鉄闘争の新たな闘争宣言発した
８・２３報告・総決起集会

動労千葉を先頭とした闘いの力は、その狙いを３０年にわたって遅らせてきました。そして今まさに国鉄闘争が闘ってきたことが問題になっています。国鉄闘争の力を本当に発揮する時がきています。

９月９日、動労千葉はＪＲ東日本へ解雇撤回・原職復帰を求める申入れを行いました。ＪＲに解雇撤回を迫る新たな闘いの開始です。国鉄分割・民営化に決着をつける闘いは、まさにこれからです。

不採用基準の策定自体を不当労働行為と認定

６・３０最高裁上告棄却で確定

国鉄分割・民営化の攻撃の核心は、国鉄からＪＲに会社の看板だけかえて「新会社ＪＲが新規採用する」という名目で不採用―解雇を自由に行うことでした。

しかし、東京地裁・高裁は、「不採用基準の策定自体が不当労働行為」と明確に認定しました。最高裁はそれを覆すことができず、上告棄却―高裁判決確定の決定を出さざるをえませんでした。

最高裁の決定は法律に等しい効力を持ちます。国鉄分割・民営化が国家的な不当労働行為であったことが、いわば「法律」になったのです。

不当労働行為による解雇ならば、原職復帰―ＪＲへの採用が当然です。

1987年　中曽根政権―国鉄分割・民営化

▼労働運動つぶし改憲・戦争へ

・「国労をつぶして総評・社会党を崩壊させることを明確に意識して国鉄分割・民営化をやった」

・「お座敷を大掃除して立派な憲法を安置する」

▼労働者の非正規職化へ道開く

・国鉄改革法制定と同年の 86 年７月、労働者派遣法を施行

2015年　安倍政権―戦争と非正規化すすめる

▼憲法踏みにじり戦争へ

・憲法解釈を変更し集団的自衛権行使を容認

・戦争法案を制定し、戦争に打って出る

▼さらなる民営化・非正規化すすめる

・派遣法改悪→派遣労働者は３年でクビ
　　会社は永久に派遣社員を使える

・労働時間規制解体→残業代ゼロ・長時間労働へ

・解雇自由特区、教育・医療の民営化特区など

集団的自衛権に反対し抗議行動にたつ港合同

ＪＲが謝罪するまで闘う

全国金属機械労組港合同委員長　中村吉政

四半世紀を超えた国鉄１０４７名不当解雇撤回をめぐる闘いで「不当労働行為を認定」させたことは大きな意味を持っています。

一切の妥協はなく、ＪＲが被解雇者の前で、膝まづいて謝罪するまで闘いを続けなければなりません。

戦後７０年、戦争反対、１０４７名解雇撤回の闘いに立ち上がりましょう。港合同は「戦争反対」の街宣活動を始め、国会会期末まで縦横無尽の闘いを展開します。

団結権破壊と断固として闘います。官民連帯の地域共闘を軸にして闘い抜く決意です。

大義ある闘いは勝利する

全日建関西地区生コン支部委員長　武 建一

関生は全て大衆闘争こそ勝利の源泉だとして勝利してきました。敵の攻撃を団結強化へ転化させ、１０年には４ヶ月半にわたる大手ゼネコンへのストを成功させました。

９月に２時間のストを予定してます。国の進路をめぐり闘うことは労働者の誇りです。各課題の闘いと、国家的不当労働行為への闘いを結合し闘えば勝利の道が開かれると確信します。動労千葉、港合同と我々による闘う労働運動の前進を目指す１１月集会の成功と継続、国鉄闘争勝利に向け、今後も諦めることなく、粘り強く闘います。

９月１１日、戦争法案反対を掲げ各地でストを闘った関生支部

動労千葉は外注化・非正規職化に１０月１日ストを構えて闘う

国鉄闘争で社会を変えよう

動労千葉委員長　田中康宏

最高裁決定は国鉄闘争を終わらせる国家意思。しかし分割・民営化の根幹が不当労働行為だと明確に認定させた。労働運動をつぶし改憲・戦争を画策した分割・民営化が不当労働行為なら、今進んでいることは全部間違い。決着をつける責任が私たちにはある。

職場の闘いと結合して安倍政権の戦争法案を止めるために、全力で決起することを訴えます。労働者の誇りにかけた闘いです。

時代が大きく動き始めた中、労働運動復権の可能性を１１月集会で具体的な姿にしたい。勝負をかけるつもりで闘います。

非正規化される過程と闘う 動労総連合の外注化阻止闘争

民営化後のＪＲでは、鉄道業務を数百の会社にバラバラに外注化する攻撃が吹き荒れました。動労千葉・動労総連合はこの攻撃に職場から立ち向かい、２０１２年１０月まで検修・構内業務の外注化を十数年にわたり阻止し続けました。

今年１０月１日、３年前に強行された外注化で強制出向に出された組合員の出向期限を迎えます。動労総連合は外注化撤回・出向解除を要求してストを構えています。

正規・非正規の団結で打ち破る

これは外注化によって非正規職が生み出される過程との闘いです。ＪＲでは委託先会社の大再編が始まっています。会社間で転籍が強制され、労働条件や賃金が切り下げられています。そしてＪＲ本体からも非正規職・低賃金に突き落としていくのです。

動労総連合は「ＪＲ本体と委託先の双方から職場をあげて闘えば外注化を粉砕できる」と闘っています。この１年で委託先から労働者が組合に加入し、各地で動労総連合の新労組ができています。ＪＲ本体と委託先、正規・非正規の分断を乗り越える歴史的な挑戦が始まっています。

動労水戸　被曝労働拒否の闘い

動労水戸は被曝労働強制に対し、労働組合としてストで闘っています。安倍政権の原発推進・福島の切り捨てとの闘いです。原発労働者との連帯をうみだし全原発廃炉へ新たな展望を切り開いています。

戦争と民営化の安倍政権倒せ

韓国・民主労総 米、独、トルコ 世界の闘う労働者が参加

ＵＡゼンセンを通じ労働運動の戦争推進勢力化を狙う

安倍政権は、総評解散・連合結成に次ぐ労働運動の再編を狙っています。

６月２６日、安倍首相は連合傘下の労働組合であるＵＡゼンセンの逢見会長と極秘に会談しました。戦争法や労働法制について意見交換したといわれています。ここには、ＵＡゼンセンを通じて連合を解体・再編する狙いがあります。

ＵＡゼンセンは改憲や徴兵制にまで賛成している労働組合です。その前身のＵＩゼンセン同盟は０８年「派遣切り」の時、派遣労働者の権利を守るために企業への規制を強化することに反対したことなどでも話題になりました。

この労働組合が１０年ほどの間に組合員を２倍近くになるまで育成され、日本最大の労働組合になりました。そして、この組合を使って連合を分裂させようという議論が始まっています。

労働運動再編は戦争への道

日本の歴史の中で労働運動が再編されたことは過去３回しかありません。産業報国会、総評の結成、分割・民営化を経た総評の解散と連合結成です。

産業報国会は第２次世界大戦へ。総評結成は朝鮮戦争へ。労働組合の再編は戦争へとつながりました。

そして、分割・民営化―総評解散・連合結成は労働運動への全面戦争の始まりでした。そして現在、安倍政権は今の連合すら認めず、戦争推進勢力にしようとしています。

労働運動をつぶさせないことが問われています。だからこそ、これと闘い続けてきた国鉄闘争の位置は本当に大きなものです。

闘いはこれからです。職場から声をあげ、労働運動再編をゆるさず、戦争を絶対に阻止しましょう。

6月２６日UAゼンセン逢見会長と安倍首相が密会

安倍の労働運動再編ゆるすな！

改憲・戦争・徴兵制を推進するＵＡゼンセン

▼改憲・戦争を推進

「他国またはテロによって国家の主権が侵され、国民を守れない事態にならないように国家権力は国家の安全保障体制を保持する義務があることも憲法に明記せよ」「現行憲法の改正を是とする方向を支持する」

（２００６年　ＵＩゼンセン同盟第５回大会）

▼徴兵制・集団的自衛権行使を主張

「国民主権を原則とする主権国家の防衛を考えるとき、単純に、徴兵制は採らない、とうたうことは、“自らは戦わない”と表明することになる」

「集団的自衛権の行使も可能とせよ」

（２００５年１０月　連合本部の見解に対し当時のＵＩゼンセン同盟・高木会長）

「パククネ打倒」を掲げ２波のゼネストを闘った韓国・民主労総。３次ゼネストを構え闘っている。

ゼネスト闘う韓国・民主労総 戦火の中東・トルコから参加

１１月労働者集会には、世界各国から闘う労働者が参加します。

韓国から参加する民主労総の仲間たちは、今年４月と７月に２波のゼネストを闘いました。労働者の権利を奪い、非正規職に突き落とし、組合を破壊する攻撃に対し、「パククネ政権打倒」を掲げて闘ったのです。

そして、第３次ゼネストを構え、パククネ政権打倒の闘いにたちあがっています。まさに日本の私たちと同じ課題に立ち向かい、世界の労働者の先頭で闘っています。

アメリカ・ドイツからも闘う仲間が参加を表明しています。

さらに、戦火の広がる中東からトルコ国際労働者連帯協会（UID-DER）の国際関係委員会代表が集会に参加します。

「中東は血の海です。政府とエルドアン大統領により、トルコは戦火に叩き込まれています」「労働者の国際的団結と共同闘争がかつてないほど重要になっています」と集会への参加を決意してくれました。

現実の戦争に駆り出されるのは、すべて労働者です。労働者が国境を越えて団結するなら、戦争は絶対にとめられます。